

伴奏講座

1泊2日

第8弾、好評のうちに終わる

日にち：2月5日(土)～6日(日) 会場：川崎市民プラザ

♪第8回目となる今回の伴奏講座の特徴は、青山義久講師を迎えて池田講師との二人体制で1泊2日の講座を企画できたことです。

参加者は講師(2名)を含めて31名と、大変盛況でした。参加者からは是非続けて欲しいとの意見が多く寄せられ、改めて歌の伴奏への関心の高さを感じた講座でした。

好評でしたので、報告を兼ねてその一端を紹介します。

◆ **青山 義久 教室**:(主に初心者コース)
(参加者18名) 写真は教室の様子



□私のコースでやったことを少し振り返ってみます。同じ音って言うのは0度ではなくて1度だということ、それは資料を読んでいただければわかると思うので、参加された方は是非復習してください理解が深まると思います。

《**同じ2度でも「広い2度」と「狭い2度」がある**》メジャーとマイナー

音程の“何度”っていうときは、同じ2度でも「広い2度」と「狭い2度」があるということ、その発展として、3度でもそれはある。3度で幅の広い3度というのは「長3度」といってこれが“メジャー”という言葉の元なんだということ、そして、狭い3度は「短3度」といってこれが「マイナー」

とという言葉の基なんだと云うことにまずたどり着いた。

《**増4度**》

で、そこから4度、4度には「完全4度」と言うのが一般的なんだけど、中には“ファ～シ”と言ってとんでもない広い変なやつがいて、それが「増4度」である。

《**減5度**》

それから、5度でも、完全5度なんだけども“シ～ファ”って言うすごく幅の狭いやつがいて、それが「減5度」なんだっていう話しをしました。

《**長音階**》

それで、次に音階で(ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ、ド)っていう一般的に使われる長音階ということで、その長音階を使って、その主音(中心になったのが)、「ド」(C)であるものが「Cメジャーの音階」ということで「八長調」ということを学びました。

で、長音階の特徴というのは、3番目と4番目に「ミ」と「ファ」という半音があること。そして7番目と8番目に「シ」と「ド」という半音がある。その二つで長調の曲だし長調のフレーズが出て来ることを勉強しました。

《**和音・三和音・四和音**》

その上に、今度は1個ずつお団子のように積み重ねていくと、「ド、ミ、ソ」だとか「ファ、ラ、ド」だとか「ソ、シ、レ」だとか、そういう和音が出来てきて、三つの音でできている和音が「三和音」ですよ。その上にもう一つ加えると4つの音が出来てきて、それが「四和音」ですよってことを勉強しました。



《コードネームの呼び方》

それで、そのコードネームの呼び方ってというのは、一番下にある根音を英語読みして、それが「ド」ならそれは「C」で、すぐ次の三度の音が「長三度」であれば「メジャー」であるので「C メジャー」、それが「短三度」であれば「C マイナー」になります。

《5 番目の音との関係》

5 番目の音との関係は、基本的に「メジャー」とか「マイナー」で成り立つものは完全 5 度でなければならない。だから、「シ」から始まるものは、5 度上の音は「ファ」となって、先程言ったような完全 5 度ではないので、これはメジャーとかマイナーのジャンルに分けられない変な和音だよって言うところまでやりました。

《実践では》

写真は「めだかの学校」を弾いてみせる青山講師（講座終了後の合同発表の場にて）



以上のことを基にして実践しました。

例えば「めだかの学校」であれば、「めだかの学校は川の中」まではいいいんだけど、その“なかあー”から「そーっと」へ、そこをどうつないでいくかということをやってみましょうということから出発して“川の中”の後に～“ミ、ファ、ソ、ラ”って入れて「そーっと」へつなぐというのをやってみました。

もう一つは、「そーっとのぞいて見てごらん」その“ラ、ソ、ミ、ミ”という特徴的なメロディーを「見てごらん」と歌った後に「みてごらん」というふうに追っかけてみ

たらどうでしょうかということをやってみました。

それから、「みんなでお遊戯しているよ」のところはちょっと乱暴になってしまうので「ソ～ファ～ミ～」のように吹き流しのきれいな和音の音を流していくことによってめだかがすいすい泳いでいる感じを出すようなことを勉強して、どれを採用するかみんなで練習してみました。

《アコーディオンの特徴》

「世界は二人のために」は非常に独創的にやっていただいて、でも、良かったですね。4 拍子のベースパターンですね、気持ちよく歌えたと思います。

アコーディオンで“コード”っていうのは便利なんですけど、ちょっと音としては貧弱なんですよ。“ブン”「チャー」と、こういう「チャー」という音っていうのはね、それは右手でちゃんとやってあげれば、ベースはベースでもって「ブン」と。

でもアコーディオンのすごいところは、そのブン「チャー、チャー」というところを左手でやってしまうとこなんですね。そうすると右手は空くからメロディーも弾けるということなんです。

《曲の雰囲気を変える》リズムの力

その他にも、ベースのパターンを効果的に使ってタンゴのリズムでやったりもしてみる。すると、曲の雰囲気が変わるっていうことですよ。普通タンゴのリズムなんてこんな曲（世界は二人のために）で使わないじゃないですか、だけど曲には表向き“こういう曲”っていうイメージっていうのがありますけども、その中にはいろんな顔があるんだということなんです。それは伴奏の中でリズムによって、そういった火の出るような激しい感じをつくってみることも可能になるということです。

《あきらめずに続けて欲しい》

今回初心者コースということで銘打って

はじめて、でもやった結果、皆さんと食堂で話していたときには、やっぱりこういう伴奏をもっともっと発展的にやっていくためには和音をちゃんと、さっと弾けるためには和音をきちんと理解しないと、そういうものがきちっとできていないと出来ないんだと、それで合宿なんかで1回勉強したからって出来るものではない、そういう声も聴きました。そういう意味で、初心者コースでしたけれどもこれから是非活用して発展させてください。

◆ **池田 健 教室:**(主に実践コース)
(参加者 11名) 写真は教室の様子



□私のコースでやったことをお話しすると、伴奏する現場では何を考えなければいけないかということ、昨日もしつこく言ったけど“リズム”ですね。伴奏するときにはリズムをきちんと伝えていなくてちゃいけない。

《**リズムはジャバラで出す**》

リズムをつくるのは、いくら口でリズムだといっても実際に音を出すのはアコーディオンなので、どこで出すかという“ジャバラ”です。ジャバラを使えないとリズムは出ない。

ちょっと途中で難しいリズムを少しみんなにも練習してもらったんだけど、「ラ・クカラチャ」みたいな中南米の曲などでしばしば使うリズムですけど、これも左手(ベース)を入れているからリズムがあるように聴こえるけども、左手(ジャバラ)を使え

ないと1本調子になり、これではリズムではない。(写真は実奏の様子)



これは何をやっているかということ、リズムの肝心要のところではジャバラを「パツ」と使っている。そのことでリズムって生まれるので、それを手の内にしないとその音楽の性格付けにならないし、生き生きとしたリズム感を出せない。また、歌う人たちを鼓舞することも出来ない。

《**歌う人たちに提示する**》

そのために、伴奏する人は、最初の前奏からこの音楽をこういうふうにするっていうことを、それから、「こんなふうに歌いたいんだ」というのを歌う人たちに提示しなくてはいけない。

そういう意味では歌の伴奏っていうのは、主役はむしろこっちかも知れない。そういう提示できる伴奏をしなければいけないという話をまず最初にしました。

《**和音とその転回を覚えて使う**》

具体的にどう伴奏するかという形の話になるけど、まず、青山講師の話と同じですけども、「ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ、ド」の音階があって、その上に和音が付いていて、しばしば使うのは「I～VI」までの和音ですと、それを「ド、ミ、ソ」って言ったなら「ド、ミ、ソ」だけでなく、「ミ、ソ、ド」「ソ、ド、ミ」もある。転回といいますけどね、その形を覚えないとなかなか伴奏って難しいんだよと。

例えば、「ド、ミ、ソ」の和音を押えて次に「ファ、ラ、ド」ってきたら遠いから演奏が難

しい。だから「ド、ミ、ソ」の次に「ド、ファ、ラ」ってやった方が簡単なので、そういう転回ってのを覚えなくちゃいけない。

《和音の表を自分でつくってみる》

「ハ長調」「ヘ長調」「ト長調」のコード表をみんなに渡したんだけど、も、「ヘ調」は♭1個で、「ト長調」は♯1個で、こういう表をつくってこれだけ和音があるんだってことを認識すること。♯1個だとこれだけ和音がありますよってことを認識した上で伴奏をつけるってことを意識しなければいけない。

で、できたら、♯四つずつ位まで、ちょっと苦しかったら三つまででいいから自分で表をつくり持っていて、♯三つっていったらこの表が頭に浮かぶようになったら一番いいです。ですから、出来たらこの表をつくってやってみたらいいと思います。

《伴奏の基本の形》

まずメロディーを弾く。メロディーを弾くっていうのはなかなか難しいんです。ソロのときにメロディーを弾くとソロの歌う気持ちと伴奏の気持ちと違っていたりすると、うたの邪魔したりするから、メロディーを弾くっていうのは神経使います。歌ごえなんかでみんなまで歌うときはいいんですけどね。

そういう意味では、メロディーを弾くのも相手との関係でどういうふうに弾くのか、お年寄りと一緒にやっているときに、お年寄りが不安なときにはしっかりメロディーを弾いて支えてあげることも必要だし。ソロみたいにしっかり自分で歌おうとしている人に対してこっちが違う弾き方をするとすごい邪魔になるので、そういうことを考えながら弾かなくてはならない。

《伴奏の形》アルペジオなど

伴奏の形です。伴奏の形は大まかに、
①和音でリズムをつくってあげる。和音を弾きながらリズムをつくってあげる。

②2番目にアルペジオ。和音を分散する(分けて弾く)やり方。

③3番目に「オブリガード」、青山講師は「吹流し」って言っていたけど、メロディーのコードを「ド、ミ、ソ」なら「ド」とか「ミ」とか「ソ」の音を横に伸ばす。で、次の和音の構成音の音をまたそれにつなげていく。そうすると、上手くすると音程が段々下がっていったり、逆に上がっていったりとか、それと、メロディーに対して違うメロディーを付けていく、そういう伴奏の付け方「対位旋律」といいますけどね。

他にも「バリエーション」などがあって、タンゴなんかによく出てきますね。

以上のような話をしました。

♪2日目合同発表会の様子♪



青山教室「めだか学校」1組の演奏



青山教室「めだか学校」2組の演奏





青山教室「めだか学校」3組の演奏



青山教室「今日の日はさようなら」の演奏



青山教室「世界は二人のために」の演奏



池田教室「どこかで春が」



池田教室「早春賦」



池田教室「てのうた」



池田教室「勝利を我らに」



池田教室
「友よ」

池田教室は、全員講師がメロディを弾き、生徒は自分でつけたコードを和音で弾いたり、“おかず”をつけての演奏でした。

♪他に「学生時代」に伴奏をつけた数名は同じグループとして同時に演奏しました。



《1日目夕食後の交流会の様子》



立奏は小野田さん「みかんの花咲く丘」



立奏は加藤さん「河は呼んでる」



交流会で歌われた歌……うたごえ喫茶ふう

下町の太陽 / 高校三年生 / カチューシャ / 若者たち / みかんの花咲く丘 / 河は呼んでる / リンゴの歌 / シュワジベチカ / 思い出のアルバム / ふるさと / 他

《参加者からの質問&感想は紙面の都合により次号で紹介致します》

..... ホワイトボード (連絡はがきその他より)

♪谷口サンデートーク♪『アコーディオンを語る集い』 *谷口楽器のホームページより*

日時 第84回 2011年3月27日(日) 13:00~14:30

講師: 加藤徹氏 「コンサーティナの演奏方法について」

第85回 2011年4月3日(日) 13:00~14:30

講師: 真野泰治氏 「不詳」(谷口楽器ホームページ参照)

第86回 2011年4月10日(日) 13:00~14:30

講師: 横森良造氏 「アコーディオン・アラカルト(28)」

第87回 2011年4月24日(日) 13:00~14:30

講師: 牧田ゆき氏 「アコーディオン・クリニック(2)」

会場 谷口楽器4階アコーディオン売り場 ◆住所 千代田区神田駿河台1-8谷口ビル4階

問い合わせ 要予約 TEL03-3291-2711 Fax 03-3291-5188 ★各回定員20名(入場無料)

※立ち見となる場合もございますので予めご了承ください。



<http://www.taniguchi-gakki.jp/sunday.html>

